

2023年度大学入学共通テスト 平均点情報

総合点は、文系、理系とも大幅なアップ

合格のポイントは堅実な出願！

進路情報研究センター ライセンスアカデミー 2022/1/18

1月18日(水)に大学入試センターより、「2023年度大学入学共通テスト(1月14日・15日実施)平均点等一覧(中間集計)」の発表があった。その発表をもとに今後の入試戦線の動きを推測した。

2024年度 大学入学共通テスト(1月14日・15日)平均点等一覧(中間集計)
2023年1月18日 独立行政法人大学入試センター

受験者数 221,659人

教科名	科目	名	2023年(中間)		2022年(中間)		平均点の 対前年差	2022年(最終)	
			受験者数	平均点	受験者数	平均点		受験者数	平均点
国語 (200点)	国語		180,428	105.2	201,554	108.8	▲ 3.6	460,967	110.3
地理歴史 (100点)	世界史 A		562	37.8	704	47.6	▲ 9.8	1,408	48.1
	世界史 B		33,541	60.1	39,064	68.0	▲ 7.9	82,986	65.8
	日本史 A		1,109	45.3	1,072	41.4	3.9	2,173	41.0
	日本史 B		53,733	61.1	63,221	54.9	6.2	147,300	52.8
	地理 A		810	57.7	915	53.7	4.0	2,187	51.6
	地理 B		46,188	62.2	48,112	61.2	1.0	141,375	59.0
公民 (100点)	現代社会		19,288	61.6	19,313	63.1	▲ 1.5	63,604	60.8
	倫理		6,352	59.0	6,897	63.7	▲ 4.7	21,843	63.3
	政治・経済		14,488	52.4	15,957	59.0	▲ 6.6	45,722	56.8
	倫理, 政治・経済		18,926	60.8	19,679	69.9	▲ 9.1	43,831	69.7
数学	数学① (100点)	数学 I	1,882	39.8	2,208	22.9	16.9	5,258	21.9
		数学 I・数学 A	130,129	58.1	151,201	40.3	17.8	357,357	38.0
	数学② (100点)	数学 II	1,786	38.9	1,951	35.2	3.7	4,960	34.4
		数学 II・数学 B	120,069	64.9	135,284	45.9	19.0	321,691	43.1
		簿記・会計	351	47.2	421	47.2	0.0	1,434	51.8
	情報関係基礎	112	62.1	73	59.8	2.3	362	57.6	
理科	理科① (50点)	物理基礎	7,153	29.4	8,854	31.5	▲ 2.1	19,395	30.4
		化学基礎	29,390	30.6	32,973	29.1	1.5	100,461	27.7
		生物基礎	34,432	25.7	39,038	25.2	0.5	125,498	23.9
		地学基礎	12,444	36.2	14,354	36.6	▲ 0.4	43,943	35.5
	理科② (100点)	物理	56,212	64.5	69,357	62.0	2.5	148,585	60.7
		化学	67,665	50.0	81,073	49.5	0.5	184,028	47.6
		生物	21,500	40.6	25,671	50.1	▲ 9.5	58,676	48.8
	地学	656	49.1	647	54.8	▲ 5.7	1,350	52.7	
外国語 (各100点)	英語【リーディング】		198,585	55.1	214,608	63.3	▲ 8.2	480,763	61.8
	英語【リスニング】		200,336	63.0	215,373	60.6	2.4	479,040	59.5
外国語 (200点)	ドイツ語		45	123.7	70	126.7	▲ 3.0	108	124.3
	フランス語		66	136.0	86	115.2	20.8	102	113.7
	中国語		451	163.3	403	166.3	▲ 3.0	599	164.8
	韓国語		99	158.9	66	139.7	19.2	123	144.7

平均点は、大学入試センター発表の数値を、小数点第2位で四捨五入した。

▲はマイナスの意味。

〈今後の日程〉

得点調整実施の有無の発表 1月20日(金)(予定)

追試験 1月28日(土)～1月29日(日)

国公立大出願受付 1月23日(月)～2月3日(金)

基幹科目と言われる3教科の中間集計における対前年度得点差は、国語▲3.6点、数学(数学I・A+数学II・B)+36.8点、英語▲5.8点で、合計で+27.4点になる。

地理歴史・公民の受験者は文系では、世界史B(▲7.9点)、日本史B(+6.2点)、現代社会(▲1.5点)の選択が多い。一方、理系では地理B(+1.0点)、現代社会(▲1.5点)の選択が多い。難関国公立大受験者の選択が多い倫理・政経は▲9.1点となっている。

理科の受験者は、文系では生物(▲9.5点)の選択が多い。一方、理系では物理(+2.5点)、化学(▲0.5点)の選択が多い。

このような得点状況から総合判断すると、総合平均点(900点満点)では、理系のほうが得意な数学で高得点を取れたと思われるので、理系のアップ幅が大きいと予想される。

自己採点集計を実施している予備校等の総合の平均点は以下の通り。

	文系 5教科7、8科目	理系 5教科7科目
河合塾	533点(+26点)	544点(+34点)
駿台・ベネッセ	532点(+24点)	544点(+31点)

※「文系5教科7、8科目」=外国語・国語・数学(2科目)・地歴公民(2科目)・理科(1、2科目)

「理系5教科7科目」=外国語・国語・数学(2科目)・地歴公民(1科目)・理科(2科目)

※各予備校のホームページより。

(河合塾、駿台・ベネッセとも1/17現在)

☆ 過去のデータから推測すると、多くの地元国公立大は、上記の表の総合平均点+約45点が国公立大の最低合格ラインの目安になっている。そのため、600点は必要であろう。国公立大出願を断念する受験生が多く出たろう。

今回発表のデータや自己採点集計結果をもとに、受験生は国公立大に出願する。共通テストの1ランクは20～25点と推測される。マクロ的には、文系、理系ともアップ幅がそれ以上に大きいので、受験生が予定していた大学の出願を1ランクアップする傾向だろう。過去の例から考えると、総合の平均点が大幅にアップした場合は、**堅実な出願が合格のポイントになる**。また、志望校を変更する場合は、共通テストと2次個別試験の配点比率や試験科目(逆転現象が大きいのは、小論文、数学や物理)にも注目する必要がある。国公立大受験者の学力は、共通テストから2次試験までの間が一番伸びると言われる。私立大選抜に目を奪われることなく、学力アップをはかってほしい。

私立大の入試戦線はどうなるであろうか。近年の一般選抜においては、個別学力検査方式よりも共通テスト利用選抜方式のほうが合格しやすいと言われている。共通テスト志願者数は17,786人(3.4%)の大幅な減少ただけに、難易が中堅以上の大学は易化傾向になろう。コロナウイルス拡大が落ち着いていない状況では、共通テスト利用選抜方式を利用するのもよい手段だろう。